



2011年11月 第9巻第11号

かく語りき—聖人の言葉

「信条や宗派は全く関係ない。信仰心を持って勤行を行い、自分の信条を実践するのだ。信仰こそが、神に至る唯一の手掛かりだ。」

(シュリー・ラーマクリシュナ)

「聖なる御名で船を作り、信仰というオールを手に、幻惑という大海を渡りなさい。」

(グル・ナナク)

今月の目次

- ・かく語りき—聖人の言葉
- ・今月の予定
- ・8月の逗子例会

『アヴァドゥータの24のグル』
スワミー・メダサーナンダによる講話

- ・忘れられない物語
- ・今月の思想

今月の予定

・ 生誕日 ・

スワミー・プレマーナンダ

12月3日(土)

シュリー・サーラダー・デーヴィー

12月17日(土)

スワミー・シヴァーナンダ

12月21日(水)

クリスマス・イブ

スワミー・サラダーナンダ

12月30日(金)

・ 行事 ・

12月の逗子例会

ホーリー・マザー シュリー・サーラ
ダー・デーヴィー生誕祝賀会

12月18日(日)

午前6時 マンガラ・アラティ(朝の
礼拝)、聖句朗唱、バジャン

午前11時 プージャ、供物の献上、花
の奉獻、聖典の輪読

スワミー・メダサーナンダによる講
話

昼食(プラサード)

午後2時30分 午後の部、聖典の輪読、
聖句朗唱、賛歌

皆様のご参加をお待ちしております。

クリスマス・イブ (クリスマスの礼拝)

午後 7 時 礼拝、聖書の輪読、キャロル、講話

皆様のご参加をお待ちしております。

元旦のカルパタル

1 月 1 日 (土) 正午 逗子本館
毎年恒例の行事です。講話、昼食の後、長谷寺 (大仏) などを皆で参拝します。

皆様のご参加をお待ちしております。

8 月の逗子例会

シュリー・クリシュナ生誕祭

『アヴァドゥータの 24 のグル (霊的な教師)』

スワミー・メダサーナンダによる講話

インドには暦が二つあり、片方によると今日はシュリー・クリシュナのお誕生日です。もう片方では明日とされていますが、協会では今日お祝いします。

インドには多くの聖者、悟った人、神様の化身が生まれましたが、その中で誰が一番有名でしょうか。日本ではブッダでしょう。インドでももちろんお釈迦様は尊敬されていますが、一番ポ

ピュラーなのはシュリー・クリシュナです。

霊的ガイド

シュリー・クリシュナはいろいろな姿をしており、クリシュナの信者はいろいろな姿のクリシュナを礼拝しています。ある信者は子供のクリシュナを、またある信者はクリシュナを自分の父親、師であるとして礼拝しています。更に、クリシュナを自分の最も愛する人として礼拝する人もいます。これは恋人とは少し違いますが、発想は同じです。自分の夫は今生の伴侶ですが、シュリー・クリシュナは永遠の伴侶です。



シュリー・クリシュナは皆さんに霊的な導きを授けます。霊的な旅における一番有名なガイドです。クリシュナの

教えはたくさんあり、それがまとめられているのが、皆さんよくご存じのバガヴァッド・ギーターと、バーガヴァタムです。ヒンドゥー教の聖典はヴェーダとウパニシャッドで、これには注釈書があります。そして、ヒンドゥー教の哲学としてサーンキヤ哲学、ヨーガ哲学、ヴェーダーンタ哲学があり、叙事詩としてラーマーヤナとマハーバーラタがあります。そしてプラーナがありますが、このプラーナの中にクリシュナの生涯や、遊び、教えなどがいろいろ入っており、これがバーガヴァタムです。全体ではとても大きな本ですが、主要な部分についてはハリウッドセンターのスワミー・プラバヴァーナナンダジによる英訳が出ていて、その日本語訳を協会でも出版しました。大事なポイントは大体その中に入っており、霊的な助言がたくさん詰まっています。

今日の私たちのテーマは、『アヴァドゥータの 24 のグル（霊的な教師）』です。シュリー・クリシュナが愛した信者、弟子にウッダヴァがいます。ウッダヴァはクリシュナをととても尊敬しており、クリシュナはウッダヴァを導くためにいろいろな助言を与え、霊的な物語を聞かせました。その物語が、『アヴァドゥータの 24 のグル』です。グルは一人のはずなのにどうして 24 人もいるのでしょうか。この理由については後でお話しします。

観察から学ぶ

この物語のエッセンスは何でしょうか。学ぶことは大切なことですが、アヴァドゥータはいろいろなものからたくさん学びました。普通、勉強は学校を卒業したらやらなくなるものです。しかし、勉強の本当の目的は、試験に受かることではなく、自己成長です。勉強しないということは自己成長もなく、死んでいるのと同じです。生きているとは学んでいるということです。人生の目的は勉強であり、人生は大きな大学です。一番大きな先生は経験で、それを一生懸命に学びます。これが生涯学習ですね。ここで言う自己成長とは、道徳的、霊的成長を言い、普通の勉強が終わったらこの勉強を始めるのです。最初にその考えをしっかりと持つことが絶対に必要です。

私は何でも知っているといううぬぼれやエゴはよくありません。自分は先生だ、先輩だと考えず、謙虚になりましょう。私は生徒から、弟子から、信者の方々からも学びます。また、本やインターネットからだけでなく他のものからも学べますが、それについては『24 のグル』の中にいろいろ書かれています。先生から教えてもらうのは容易ですが、普通の人や自然から学ぶには何が必要でしょうか。木は何も言わないけれどメッセージがあります。自然はすべて黙って教えているのです。

普通の人もそうです。ラーマクリシュナは時々助言をされましたが、ホーリー・マザーはあまり語らず霊的な実践もあまりされていませんでした。しかし、ホーリー・マザーの生涯そのものがメッセージです。どうしたらそのメッセージが分かるのでしょうか。観察、これがとても大事です。ただ見るのではなく、深く見る、深く何回も見て長い時間考える、これが観察です。

考えの浅い人は見るだけですが、考えの深い人は見るだけでなく観察します。シュリー・ラーマクリシュナやスワミー・ヴィヴェーカーナンダはその力が深い方でした。シュリー・ラーマクリシュナは信者に質問されると、その信者の頭から足先までよく見て、相手のバックグラウンドを理解した上で答えました。よい霊性の先生は、集中して見、深く考えるので、洞察力、見識を得ます。よい人間関係を築くには、観察がとても大事です。観察から学び、そして学んだ結果に従うのです。

24 のグル

では、シュリー・クリシュナの語られたお話を始めましょう。ヤドゥという名前の王様がいました。ヤドゥの所にはいつもたくさんの客人がきていました。ある時、アヴァドゥータという名の若いお坊さん（サンニヤーシン）が現れました。アヴァドゥータは丈夫で

力も強かったのですが働かず、食べ物への心配をしませんでした。とても美しい容貌でしたが結婚はせず、年を取って面倒を見てくれる人のことを心配しませんでした。困ったことがあっても支えてくれる人はなく、友人も、妻もいませんでした。賢い人でしたが人と話しませんでした。家もなく、話もしたくなく、うぬぼれもプライドもなく、束縛もなく、平安で至福に満ちていました。ヤドゥはアヴァドゥータの様子に驚いて、質問をしました。「あなたはそんなに若いのにどうしてそのように賢くなったのですか。あなたには仕事もお金も奥さんも家もない。しかしあなたは何も心配していない。我々は、お金や食べ物、家、友人、妻のことが心配です。」アヴァドゥータは実は普通のお坊さんではなく、悟りを得た人でした。そこで、どのようにして今のような状態を得られたのか、ヤドゥに説明しました。

グルには三種類あります。一つはシキシャーグルで普通の学問を授けるグル。二つ目はマントラグルまたはディクシヤグルと呼ばれるマントラを授けるグルで、このグルは自分にとって一人しかいません。そして最後にギヤーナグルという知識を授けるグルで、24 のグルとはギヤーナグルのことです。アヴァドゥータのギヤーナグルは、大地（自然）、空気、アーカーシャ（エーテル、空間）、水、火、月、太陽、海、ガ、ハ

チ、クモ、ブラフマラ・キータ（虫の一種）、魚、ハト、ミサゴ（タカの種類）、ヘビ、ニシキヘビ、ゾウ、シカ、娼婦ピンガラー、子供、乙女、ハチミツ業者、矢師（矢を作る職人）でした。



大地

大地は、家を建てるのに穴を掘っても何も言いません。人間が大地や自然に対して傷つけるようなことをしても、大地も自然も何も言いません。アヴァドゥータは大地から我慢と忍耐を学びました。ホーリー・マザーもいろいろな問題を抱えており人に批判されることもありましたが、我慢していました。生きるために我慢は必要です。肯定的に生きるためにも、人とよい関係で生きるためにも、我慢は必要です。大地から木が生え、木から果実が採れます。

木を切って家を建てることもできます。花や川など、すべては大地から生まれ、人間はそれをもらっています。人間は誰かにもものをあげれば見返りやお礼の言葉を期待します。自然は何も見返りを求めません。木は、自分のためでなく他のもののために果実や木材を差し出し、お礼の言葉も期待しません。

一番利己的なのは人間です。執着が出ると考えが狭くなり、束縛が生じます。悲しみや苦しみ、失望等の源はすべて、利己的であることです。自分や家族のことだけしか考えません。また、木は自分で動かないけれど、ある日別の場所に移植されても文句を言いません。

空気

次は空気です。空気から学ぶことは無執着です。風の中に花の香りがあると空気もよい匂いとなり、汚い腐ったものがあると腐った臭いになりますが、どちらも一時的な影響で、空気の本性は変わりません。影響はされても執着はなく、よい匂い、腐った臭いを自ら選択することもあります。ある家の主人は、家に来いとも来るとも言わず、中に入ってとも入らないでとも言わず、来ればもてなし、引き留めることもせず、いつも心の状態は同じです。これを空気から学びました。

自分の肉体について無執着とはどの

ような状態でしょう。暑い、寒い、苦しい、楽しい、成功、失敗などどんな時でも心の状態は同じです。空気のようにほとんど影響されません。バガヴァッド・ギーターにもあるように、人から褒められても喜ばず、批判されても苦しまない、何も変化しないのです。

アーカーシャ／エーテル

次はアーカーシャ、エーテルです。空（くう）ではなく哲学的なアーカーシャです。アーカーシャの要素はとても精妙で遍在しています。私の中のアーカーシャ、部屋の中のアーカーシャ、グラスの中のアーカーシャはみな別々に見えますが、同じアーカーシャです。アーカーシャは一つだけですがすべての中に入っています。アートマンも同じで、アートマンが別々だと思えるのは無知だからです。あなたのアートマンと私のアートマンは同じです。これをアーカーシャから学びました。

水

次是水です。水の特徴は何でしょうか。汚いものをきれいにします。沐浴すると気持ちがよくなります。聖者の特徴も同じで、神聖な交わり (holy company) により気持ちがよくなり神聖になります。水は他のものをきれいにし、聖者は弟子や信者を神聖にするのです。聖者という時は世俗的なことは話さず、

神様についての話を聞き、聖者の霊的な実践を観察しないと、神聖な交わりから何も得ることができません。『ラーマクリシュナの福音』の著者である M さんは弟子たちに、ベルル・マートへはお坊さんが瞑想している時に行き、それを見てインスピレーションを得なさい、これが神聖な人との本当の交わりですと言っていました。聖典の話をしたり神様に祈っている時には行かないで、食事をしたりくつろいだりしている時に行っても、世俗的な交わりと何の違いもありません。

火

次は火です。火は明るく輝いています。聖者も輝いています。聖者は神聖な人ですから神聖な光が出ます。シュリー・クリシュナの絵を見て下さい。後ろからハロー（後光）が出ています。本当の光は出ていなくても、霊的なハロー、オーラ、バイブレーションでとても明るくなっています。神様の後ろにはジョーティ、オーラが出ています。皆さんも、気付いてはいなくてもオーラを出しています。世俗的な人のバイブレーションは世俗的、神聖な人のバイブレーションは霊的です。霊的な知識は輝いています。普通の光が輝くと暗くなくなりますが、聖者の光が輝くと人の無知の暗闇がなくなります。聖者の知識の光で、周りの無知な人の暗闇もなくなります。

また、火の中には汚いものが入っていることもあります。火は中のものの影響を受けずいつもピュアな火のままです。聖者も同じで、周りにいる悪人や罪人の影響を受けずいつもピュアです。ガンジス川も中で沐浴したり汚れを落としたりしますが、川そのものは変わらずピュアです。神聖な性質は無くならず、いつも浄らかにしてくれます。

そして、火は他の物の中に隠れていることがあります。森が火事になることがあります。これは木の中に隠れていた火が現れたのです。隠れていた火も現れている火も同じです。神様も、祈ったり瞑想したりしないと隠れています。神様に祈り瞑想することで現れます。瞑想しないと現れませんが、見えなくても神様はいるのです。

ホーマ（護摩）の儀式では火の神様にいろいろお供えしますが、その中には汚いものが混ざっていることがあります。しかし、火は供えられたものを何でも受け取ります。純金がほしい時は、火の中に金（きん）を入れて不純なものを取り除けば純粋な金が残ります。神様も、すべてのものを受け入れて信者の心の汚れをきれいにします。

炎の大きさが違っても火に変わりはありません。神様も、信者が少し瞑想

すると少しだけ現れ、もっと瞑想するともっと現れます。しかしレベルは違って同じ炎です。また、燃やすものの大きさや色によって火の大きさや色も変わります。大きなものを燃やせば火は大きくなり、小さいものは小さくなります。赤いものを燃やせば火は赤くなり、青いものを燃やせば青くなります。神様も、すべてのものの中にいらっしゃるそのものの形になっていますが、神様に変わりはありません。

月

次は月です。月は満月、新月と状態の変化はあっても月そのものは変化しません。人は子供、若者、年寄りと変化しますが、内なる自己、アトマンは変わりません。それを学びました。

太陽

次は太陽です。聖典では、太陽はすべてのものから水分を取りだし、また元に戻すとされています。雲ができ、そこから雨が降り、その雨を喝かします。聖者も同じく、食事をしたり歌を聴いたりしますが、執着はせず、何も貯めません。普通の人、良いものを貯めたい、お金を貯めたい、と何でも貯めたいがります。

太陽は一つですが、池や湖、水たまりに姿が映ります。アトマンも皆の中

にあります。それは反射であり、アートマンは一つです。また、きれいな水に映っても汚い水に映っても、太陽は影響を受けることなくいつも同じ、純粹です。

ハト

次はハトです。ハトの物語があります。雄のハトが雌のハトに恋をして結婚し、子供が生まれました。親バトたちが餌を探しに行っている間にハンターがやって来て網を張り、子バトたちはその網に掛かってしまいました。戻ってきたお母さんバトはとても悲しみ、何も考えずに子供たちに近づき網に係りました。少ししてお父さんバトが戻ってくると、網に掛かった子供たちと奥さんを見て、やはり何も考えずにそばに行き、網に掛かりました。このように、何も考えず識別もせず、自分の感覚をコントロールしないで感情に左右されていると大きな問題が起こります。苦しい時も悲しい時も絶対に感情的にならずに識別するようにしないと、問題が解決しないばかりか更に大きくなります。

ニシキヘビ

次はニシキヘビです。ニシキヘビは大きなヘビで、自分であちこち動きません。普通のヘビはあちこち行くけれど、大きなヘビは一つの場所において、偶然

やって来た小動物を、おいしいかおいしくないかも考えずに食べます。その時が来るまで待っているのです。インドでは、アシュラムにいるお坊さんは料理人がいて食事が出てきますが、アシュラムに住まないお坊さんは一人であちこち歩き、托鉢で食事の施しを受けます。また、あるお坊さんは自分の場所から動かずにいて、近くの信者が施しをしに来るのを待ちます。有るもよし、無いもよし、自分から施しを求めず、神様に頼ります。これをニシキヘビから学びました。

海

次は海です。海はいくつもの川から水がたくさん入ってくるけれど、溢れることはなくいつも同じです。人間も、良い経験や悪い経験をしても心の状態を静かに保つのです。心の中に欲望がいろいろと浮かんでも気にせず、その欲望を満たしたいと思わなければ、心は静かです。欲望を満たそうと思うと心はバランスを失います。これを海から学びました。

ガ

次はガです。ガは火の色が好きで、明るい火を抱きしめたいと思って火の中に入って行き焼け死んでしまいます。美しい男性や女性、美しい景色など、すべての美しいものに対して視覚をコン

トロールしないと執着が出ます。それをガから学びました。

ゾウ

次はゾウです。触角についてです。雄ゾウは雌ゾウに触れるのがとても好きで、遠くに雌ゾウを見つけると、何も考えず識別もせず雌ゾウに近づこうと走っていきます。しかし問題が二つあります。一つは、その雌ゾウに他の雄ゾウも触れたいと思っているので、雄ゾウの間に争いが起こります。もう一つは、ハンターが雌ゾウを囿にして雄ゾウを誘い、落とし穴を作って待っているのです。雌ゾウに触れたい一心で走ってくる雄ゾウは、気付かずに罠に落ちます。人も外から分からないように誘惑をしますが、賢い人は慎重に感覚をコントロールします。これをゾウから学びました。

シカ

次はシカ、聴覚です。シカは美しいフルートの音が大好きです。ハンターはそれを知っているので、落とし穴を作ってフルートの音でシカを誘います。シカはフルートの音を聞くと、もっと近くで聞きたいと寄ってきて、ハンターが仕掛けた穴に落ちるのです。世俗的な歌や音楽、カラオケを聞くと、世俗的な考えが生まれます。これをシカから学びました。

魚

次は魚、味覚です。釣りざおの針に餌がついていると、魚は何の識別もしないで餌に食いつき、釣られてしまいます。自分の舌をコントロールしないと問題が起きるのです。人が死ぬ原因のほとんどは、食べるものがないことではなく、好きなものばかり食べていることです。これを魚から学びました。

ハチ

次はハチです。ハチはいろいろな花から蜜を集めます。お坊さんも同じで、いろいろな聖典を勉強して、その中で何が良いかを考えて学びます。しかし、気をつけないといけないこともあります。蓮華は香りも良く蜜もおいしいので、ハチは朝からずっとその蜜を飲み続けます。しかし夕方になると蓮華の花は閉じてしまうので、ずっと花の中にいるとハチは花に閉じ込められて死んでしまいます。何も考えず執着するとうような結果になります。頭のいいハチは、蜜を少しだけ飲むと満足して飛んでいきます。ハチから二つのことを学びました。聖典から良いことだけを見つけます。人に対しても良いところだけを見て批判しません。執着すると死に至ります。

ハチミツ業者

次は、ハチミツ業者です。ハチは巣を作って蜜をたくさん集めてきますが、ハチミツ業者に取られてしまい、自分には何も残りません。クマバチは蜜を蓄えないので、心配することはありません。未来のためにと蓄えることをしなければ、何も心配することはありません。

娼婦ピンガラー

次は、娼婦ピンガラーです。ピンガラーはとても美しく、お客様のために服や飾りのことを考え、いつもお客様を待っています。彼女はお金持ちのお客様が来ることを望んでいましたが、真夜中になっても誰も来ませんでした。疲れて失望したピンガラーは内省しました。「私はとても不幸で蔑まれている。望みはあってもいつも叶わない。快樂のために人のお金を当てにしていたけれど、それは本当の幸せではない。」ピンガラーは今までそれが分かりませんでした。本当の幸せは、神様のことを考えるだけで得られます。世俗的な楽しみでは得られないのだということが、本当に苦しく悲しくなって初めて分かりました。ピンガラーは、「これからは本当の幸せのために、人でもなくお金でもなく神様だけに頼ろう」と思いました。内省、識別ができたので、今までの生き方をやめて神様に従うことにしました。すると心の中に知識が浮か

んで心が静かになり、平安が得られました。すべての欲望を放棄したので、本当の幸せを手にしたのです。欲望から大きな苦しみや悲しみが生まれ、欲望を捨てれば本当の平安が訪れます。アヴァドゥータはピンガラーを観察してこれを学んだのです。

子供

次は子供です。子供は、サットワ、ラジャス、タマスの三つのグナの影響を受けません。タマスのとは、怠け者で鈍く、暗く低い状態です。ラジャスは活発ですが、働き過ぎです。サットワは良い状態です。子供は、ある時はタマスの、ある時はラジャスの、ある時はサットワ的ですが、どれも長く続きません。ある一つの性質の影響をずっとは受けないのです。これらの性質の影響を超越しないと永遠の至福は得られないことを、アヴァドゥータは学びました。

乙女

次は乙女です。ある家に、乙女が家族と住んでいました。ある時、両親が出かけていて乙女が一人の所へ、客人が数人突然やって来ました。客人は昼食が食べたかったので、乙女はそれを作ろうとしましたがお米がなく、籾からお米を作らなければなりません。籾殻を取り除いていると、乙女のブレ

スレットが大きな音をたてました。乙女は、お客様にお米がないことが分かれると大変なので、気付かれないようにブレスレットを一つずつ外していきました。ブレスレットが一つになると静かになりました。アヴァドゥータはそれを観察していて、皆で一緒にいるとさくさくして霊性の修行はできず、二人で住んでも無駄な話が出るけれど、一人で住めば静かになるということ学びました。厳しい霊性の修行を实践したいのなら、一人でいないとできないと学んだのです。

矢師

次は、矢師です。矢を作るにはとても集中して仕事をしないと、完璧なものを作れません。ある矢師がずっと集中して矢を作っていました。途中で楽団の大きな音がしてきましたが、矢師には何も聞こえませんでした。そのくらい集中していたのです。神様を瞑想する時も、集中して瞑想しなければ進歩しません。これを矢師から学びました。

へび

次は、へびです。へびは自分で穴を作らず、他のものが作った穴に住んでいます。自分の家がなく自分のためには何もしないので、執着がありません。自分で作ると執着が出ます。自分のために何もしない、何も持たない、これ

は一番大きな放棄です。

クモ

次は、クモです。クモは自分で巣を作り、後でその巣を自分の中に引き戻します。神様は宇宙を自分から出して、その宇宙の中に入り、最後に宇宙を自分の中に引き戻します。

ブラフマラ・キータ

次は、ブラフマラ・キータという虫です。この虫は他の虫がとても恐いので、他の虫に襲われると、巣に運ばれていく間にその虫のことをずっと考えているので、変化してその虫になります。もし私が集中してある対象について考えていると、私はその対象になります。神様のことを集中してずっと考えていると、私たちは神様になり、神聖になるのです。

ミサゴ

最後は、ミサゴ、トンビのような鳥です。ミサゴは魚を食べます。店から魚を盗ると、別の場所に持って行ってそこでゆっくりと食べます。しかし、魚をくわえて飛んでいるミサゴを別のミサゴが見ると、その魚がほしくなって追いかけてきます。別の場所に行こうとしても、いつまでも他のミサゴがついてきます。魚を食べることも、安心

もできないのです。もし世俗的な楽しみを求めると、恐れ、心配、失望がついてまわり、求めなければ苦しみもないのです。

これが『アヴァドゥータの24のグル』の物語です。家住者の方は全部を実行できなくても、そのメッセージを理解し、できるだけ従うことで、自己成長することができるのです。



2011年カーリープージャのご報告

10月26日(水)、逗子の協会本館で夜7時よりカーリープージャが催されました。

カーリープージャは、カーリー女神のために様々な品々を捧げて祈る供養祭で、協会は1年おきに大きな供養際を行っています。



祭壇は女神カーリーのお写真を中心に、その特徴である赤色を基調にした花々が美しく飾られ、たくさんのキャンドルが灯されていました。供養奉獻と祈り(プージャ)が行われ、その後、マハラージがインドから持参された葉と花を参加者にお配りし、全員でマントラを唱和し、参加者一人ひとりがカーリー女神への献花(プスパンジャリ)を行いました。続いて本館2階でインド式のホーマ(護摩炊き)が行われま

した。



ホーマはジュデプ・チャットパディ
アイ氏の介添えで儀式が厳密に進めら

れ、最後に火の中の神にいくつかの供養物、特定の葉と浄化されたバター（ギー）がマントラの詠唱とともに捧げられました。ホーマでの残った灰はマハラージのお手により一人ひとりの額に丁寧に付けられていきました。祭儀は9時過ぎに終了し、その後1Fと2Fに分かれて夕食が振舞われ、10時過ぎに解散となりました。

カーリープージャはインド暦のカーリー女神の供養祭に開催されるのですが、今年は平日だったにもかかわらず大勢のお客様がお見えになりました。また、今までのカーリープージャの参加者はインド人が約70%を占めていたのですが、今年は日本人の方も多く出席され、半々の割合でした。このためもあって、参加者は過去最多の120人位で、受付では玄関の外まで大行列となり、靴も玄関に入りきらず外にも重ねておいた程です。予想を超える大勢の参加者でしたが、前日から信者・ボランティアの方々が泊り込みで準備をされまた当日は、ヨーガスクールカイラスの方々や大勢の出席者の方々の働きにより無事終了いたしました。



忘れられない物語

階段

ある男が高い塔を見つけた。中に入ってみるとそこは真っ暗だった。手探りで進むとらせん階段があった。どこに出るのだろうという好奇心に駆られ、男は階段を上り始めた。上へと進むにつれ、男の心には不安が募っていった。

そこで男は振り返って後ろを見た。恐ろしいことに、階段を一段上るたびに、下の段は落ちてなくなっていった。男はとても怖くなった。目の前には階段が続くばかりで、どこに出るのかまったく分からなかった。背後には巨大な暗闇がぼっかりと口をあけているだけだった。

(Anthony de Mello 神父著)

今月の思想

暗闇を呪うよりも
一本の小さなろうそくに火を灯す方が
よい。

(孔子)

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: info@vedanta.jp